

1 前事業年度（平成26年度）の事業報告書

活動総括

トラストサルン釧路は、釧路湿原の環境を保全するため、国立公園区域から外れて保護が期待できない湿地、および水源となる湿原周囲の丘陵地帯に自然保護地をつくることを目標に活動しています。平成26年度も会員はじめ多くの方々のご支援のもと、事業を順調に進めることができました。トラスト地の成立、緑化事業、また自然再生協議会においては10年目の節目の基本構想見直しへの提言など、会の目標に沿った活動を行ないました。

1. ナショナルトラスト活動

平成26年度の新規自然保護地成立は、湿原の東側に位置する釧路町内にて、土地のご寄付による1件2,509m²がありました。このほかには前年度よりの取得交渉が1件、断続的に進められましたが、まだ成果は見ていません。

2. 自然再生の取り組みと保護地の管理

勝野遺贈金を活用した社会福祉施設との協働による作業および会員等のボランティア作業により、苗畑での地元樹種の苗づくりを継続して行いました。植樹は、市民参加も含めてボランティアによるもの460本、助成事業による植樹も約1,000本行うことができました。シカの食害を防ぐためのネットの維持補修も行いました。また保護地内での水生生物調査を委託して行いました。

3. 会の基盤づくり

会活動の基盤となる会員拡大に継続して努力しています。平成26年度は新入会5名に対し退会等の会員減が17人となり、残念ながら会員数は減少となりました。湿原保護基金には新たに754,693円が集まりました。広報活動に関する研修受講など、実務力の改善にも努力しました。

4. 広報・主張・啓もう活動

会報『サルンだより』を4回発行し、併行して一般向けの『湿原の新聞』を発行しました。インターネットのホームページでは会の活動を広く紹介しました。また一般市民向けの野外行事として、春の植樹会、コッタロ水源林保護地の視察会、ホタル観察会、どんぐり記念日、水鳥観察会等を開催しました。釧路湿原自然再生協議会では、会の活動を報告するとともに、基本構想見直しに際して、保護保全と市民参加を重視する立場から提言を行いました。

5. 他機関・団体との連携

釧路湿原再生協議会ワングリーンダのメンバーとして一部の行事を開催しました。企業の支援を受けた活動を進めることで、環境CSR活動の拡大にも協力しました。大学の野外セミナーの受け入れや、地元野鳥の会との共催行事も行いました。